

日本海側拠点港の形成に向けた 計画書

[国際海上コンテナ]

平成23年7月
石狩湾新港管理組合

目標

- ロシアの活力を、北海道が先導役を担いつつ、我が国の成長に取り込む。
- 太平洋側等との相互補完を果たし、我が国の防災能力の向上を図る。

石狩湾新港の目指す姿

- 北海道の最大の強み「食」関連産業のロシア市場への進出を支援するため、極東ロシア「ウラジオストク」との航路開設を目指す。
- さらに、航路の充実を図り、SCMを実現することにより、北海道「工業」「寒冷地技術」を軸に、対岸ロシアとの水平分業を可能とし、産業の高度化を図る。
- 同時に、「道央5港」の連携をベースに、より強化することにより、災害時等において、太平洋側等との相互補完を果たし、リダンダンシー機能を確保する。

計画のアウトライン

成長 ← ビジネス交流 → 潜在力

2012 APEC開催

〔APEC関連ウラジオストク開発投資〕
5530億RUB=1.6兆円投入

その後も持続的な成長に期待

- ・2018年までの極東ザバイカル地方社会経済発展特別プログラム
 - ・2025年までの極東バイカル地方社会経済発展戦略('09.12採択)
 - ・2050年までの極東地域の長期発展コンセプト
- ※'10.3メドベージェフ大統領・シャーエフ全権代表会談で決定

日本企業の進出の動き

- ◆自動車産業の進出
- トヨタ: 2012年を目途に3万台の乗用車を生産
- いすゞ: 2012年度に小型トラックを5千台規模で生産
- マツダ: 2012年中にウラジオストク周辺で、中型車を2.5~5万台生産

「交流基盤」

「食」

「工業」

「寒冷地技術」

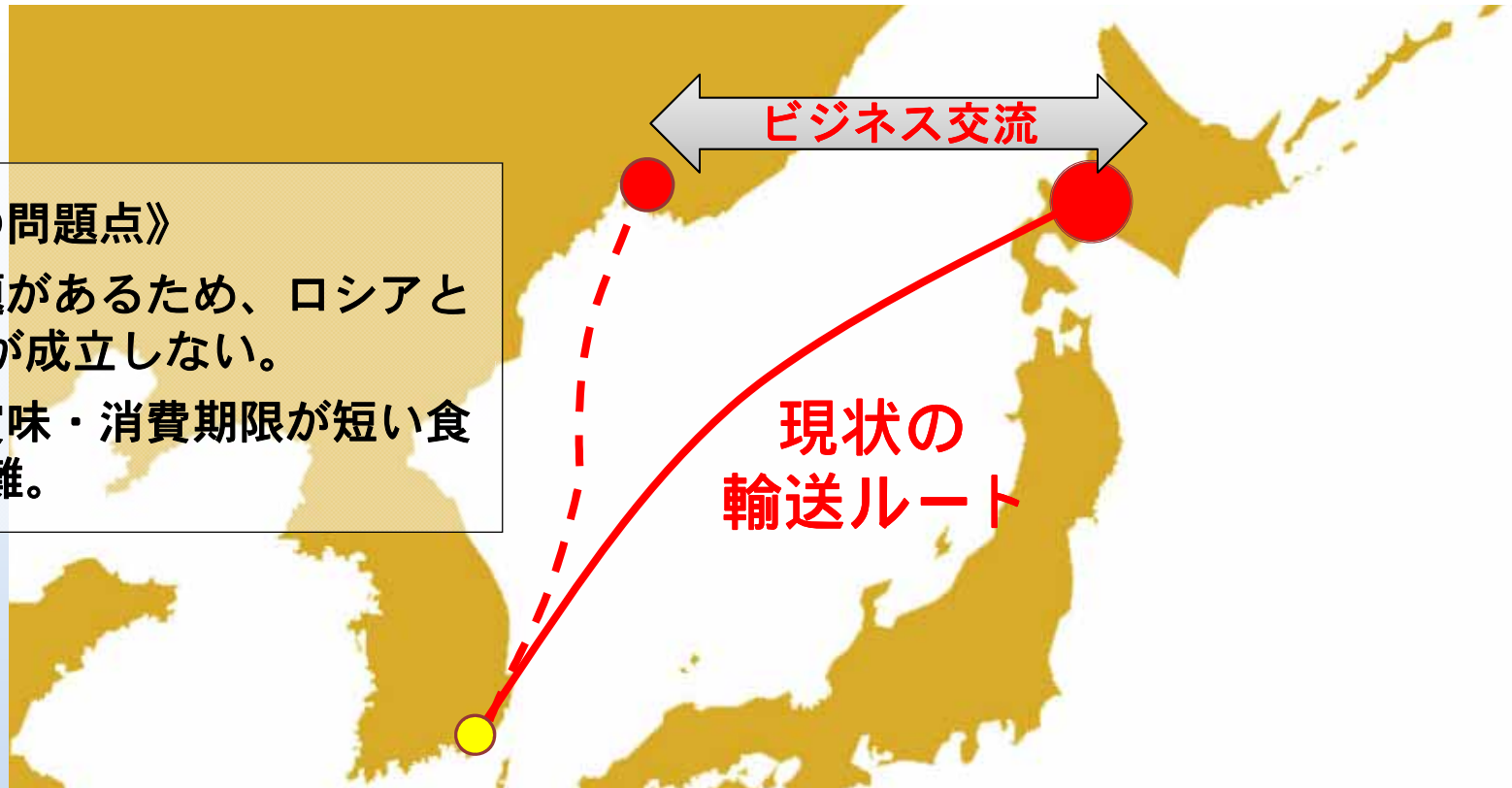
課

題

- 現状では、ロシア本土とのダイレクト航路が無いことから、他港での積み替えとなり、非効率な輸送がロシアへのビジネス進出における大きな課題。

《現状の輸送ルートの問題点》

- ・ 定時性・頻度に課題があるため、ロシアとのサプライチェーンが成立しない。
- ・ 輸送日数からも、賞味・消費期限が短い食品の輸送は、特に困難。



(参考)JETRO 農水産物・食品試験輸出調査(ロシア向け)事業(2009年3月) 報告書抜粋

(2)物流上の問題(北海道からロシア極東への海上輸送)

…(前略)…今回は石狩港→釜山港→ウラジオストク港経由で輸送したが、現状この航路を選択せざるを得ない。…(中略)…日本から直接ロシアへ向かう物流ルートを関連地域が連携して対応策を検討することが期待される。

北海道の潜在力

○北海道は地理だけではなく、歴史においても、ロシアとの結びつきが強く、国内におけるロシア交流の最先進地。

・20年超にも及ぶ北海道の官民一体となった経済交流事業

〔知事によるトップセールスや見本市の開催等「北海道とロシア連邦極東地域との経済協力発展プログラム」の推進〕

- ・北海道産食品ニーズ調査
- ・道産食品PR事業
- ・展示会、見本市の開催
- ・道産食品ビジネスミーティング
- ・ビジネスマッチング事業

・姉妹都市の市町村数は日本一

北海道は、ロシアの州や都市と姉妹都市提携している市町村数の数は、日本一であり、市町村単位でもロシア交流が活発。

・金融機関が企業のビジネス進出をサポート

極東ロシア地域へ駐在所を開設し、北海道経済のロシア市場進出をサポートしている他、ロシア大手銀行との業務提携により、決済手続き等もサポート。



ポテンシャル

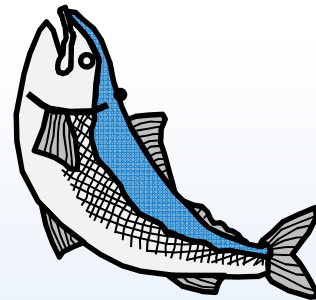
ISHIKARI BAY NEW PORT 〔国際海上コンテナ〕

試される大地

北海道

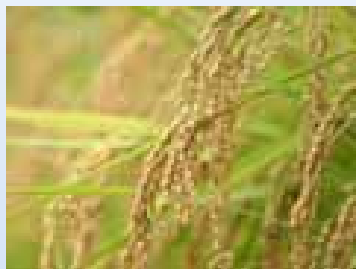
鮭

サケ目サケ科サケ属の魚。
日本海、オホーツク海、ベーリング海およびアラスカ湾などの海域が日本系サケの生息域。
欧州では、道産鮭は“ワイルドサーモン”として健康志向の中、注目が高まっている。



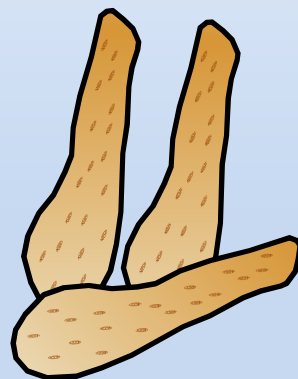
道産米

作付け面積は全国一位。
中でも「ななつぼし」はコシヒカリと並んで食味ランキングは「徳A」。
北海道の冷涼な気候により、減農薬であんしん。
香港やシンガポールに等輸出されており、香港では、大人気。



長芋

ヤマノイモ科ヤマノイモ属
漢名は「山薬」
医食同源の国、中国ではナガイモが薬膳として利用されており、中でも、日本産は高い人気。



帆立

二枚貝綱-翼形亜綱-
大ぶりの道産ホタテは、衛生管理の厳しいEUで高級食材として大人気。
稚貝は日本海沿岸が一大供給地。

拉麺

日本人の国民食
道内のラーメンチェーン大手が香港、韓国、中国、台湾等アジア各地に出店し、大人気。
言わずもがな北海道の誇る“ラーメン”は今や国境を越え、アジアの国民食へ。



枝豆

ビールのお供！
中札内村といえば枝豆。
加工工場に大規模瞬間冷凍施設を設置し冷凍枝豆を生産。
現在は、国内全域のみならず、ロシア、アメリカ、中国、シンガポールなど海外へも輸出。

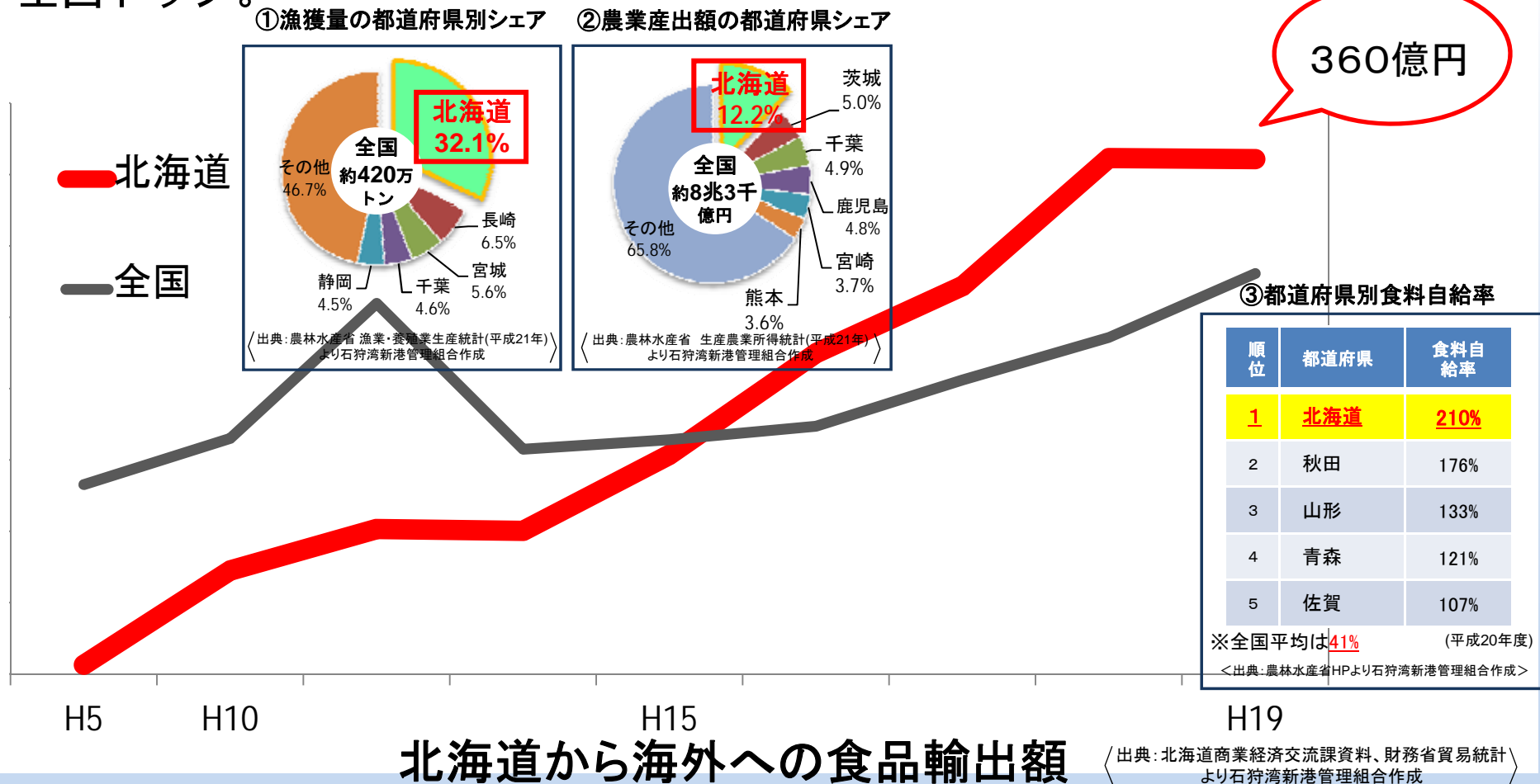
牛乳

酪農王国北海道。
LL牛乳は、香港のほか台湾、シンガポール、中国本土へ輸出。
北海道産LL牛乳は、安全・安心で高品質、さらに濃厚で味が良いと高い評価を得ている。



北海道の潜在力 《食》

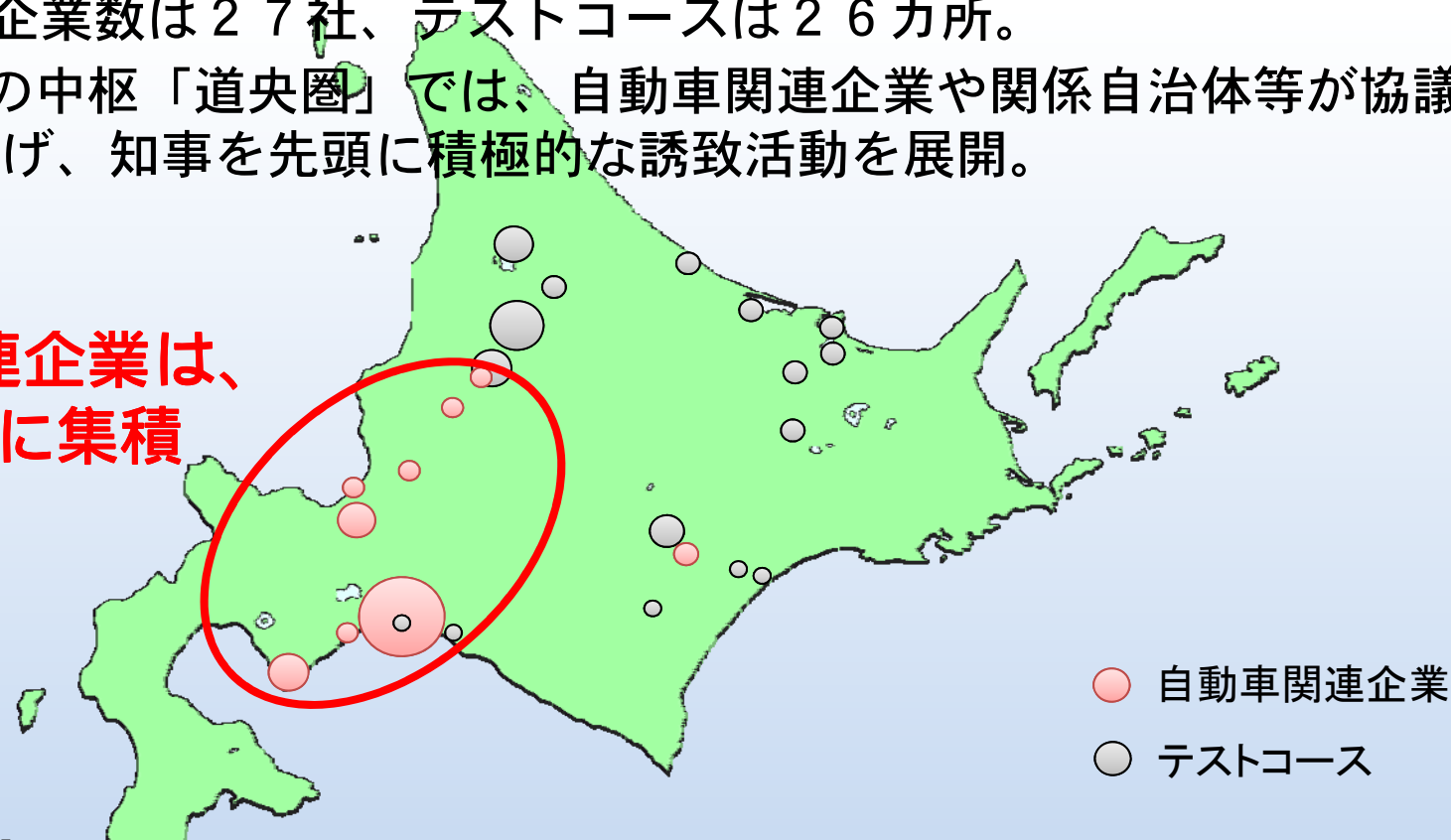
- 道産食品は、海外で高い評価を受け、輸出額は大幅に増加。
- 北海道は、日本の食料基地として、食料自給率及び漁獲量や農業算出額は全国トップ。



北海道の潜在力

- 北海道においても、自動車関連産業の立地が進んでいるところであり、現在その企業数は27社、テストコースは26カ所。
- 北海道の中核「道央圏」では、自動車関連企業や関係自治体等が協議会を立ち上げ、知事を先頭に積極的な誘致活動を展開。

自動車関連企業は、
道央圏に集積



【主な自動車関連企業】 27社

トヨタ自動車北海道(株)、アイシン北海道(株)、いすゞエンジン製造北海道(株)、(株)デンソーエレクトロニクスなど

【主なテストコース設置企業】 26カ所

本田技研工業(株)、マツダ(株)、日産自動車(株)、(株)ブリジストン、東洋ゴム工業(株)、ボッシュ(株)など

北海道の潜在力

- 「寒冷地」という北海道とロシアの気候の共通性から、寒冷地技術の建築資材等のビジネス進出が本格的に動き出そうとしている。
 - ・北海道のハウスメーカーでは、道内自社工場で製造した主要資材等を輸出し、現地において高気密・高断熱で耐震性の高いモデルハウスを建設するなど、本格進出への動きが加速。
 - ・この他、建築関連企業が、ロシア極東地域等に外壁材を輸出。同社では技術指導も行うなど、積極的な売り込みを行っており、ロシアとのダイレクト航路を切望。

《輸出促進に向けた取り組みの例》

- ・平成21年度に、寒冷地対策建築・土木技術分野をアピールするため、寒冷地対策建築技術セミナー in ウラジオストクを開催。
(北海道、財団法人貿易研修センター他)

《住宅メーカー進出の動き》

帯広の住宅建設会社が、本年6月、ロシアのハバロフスクに断熱効果の高い資材などを日本から輸出し、日本の技術者の指導で木造2階建てのモデルハウス1棟を建設する。
さらに、経済成長で増加した富裕層を狙って、2012年度からの3年間で一戸建て住宅50棟の販売につなげる。同社社長のコメントとして、「夏暑く、冬寒い気候は十勝と似ており、自社の住宅建設技術が生かせる」と話している。
北海道新聞(平成23年4月13日朝刊記事)より

- 日本製の日用品等は、ロシア国内での評価が高く、今後の輸出増加に期待。

目

指す姿への取り組み～ダイレクト航路の就航～

ISHIKARI BAY NEW PORT

〔国際海上コンテナ〕

目指す姿への取り組み（航路誘致）

- 北海道の産業力と経済交流の推進力を活かし、港湾振興団体等と連携しながらウラジオストクとのダイレクト航路を誘致。

現状(釜山港経由)



輸送日数は約**12**日

目指す姿(ダイレクト航路)



輸送日数は※約**2**日

指す姿への取り組み～ダイレクト航路の就航～

目指す姿への取り組み（航路拡充）

- 札幌圏の産業拠点「石狩湾新港地域」の流通機能を活かし、ロシア貿易の物流拠点を形成する。
- 地域の冷凍冷蔵倉庫群の庫腹量は約23万トン（札幌市内を含めると約43万トン）日本海側最大級の集積規模を活かし、北海道の「食」の輸出拠点へ。

日本海側最大級の経済圏
人口約250万人の「札幌圏」

石狩湾新港地域

国内最大級の
冷凍冷蔵倉庫の集積

庫腹量約**23**万トン

札幌市内を含めると

庫腹量約**43**万トン

未来に大きな可能性を有する3,000haの広大な産業空間

目指す姿への取り組み（更なる航路充実に向けて）

- 航路誘致・拡充に向け、他地域と連携しつつ、更なる集荷を図る。
- 国内では、国内第二位の食料供給基地である東北エリアの連携方策を模索する。
- さらに、国外においても、ロシアとの交流が盛んな韓国北部エリアの都市との連携により、ロシア貿易の新たな可能性を見出す。

Step1 ・東北エリアの玄関「秋田港」の連携しながら、ロシアとの輸送の基盤となる航路の就航。

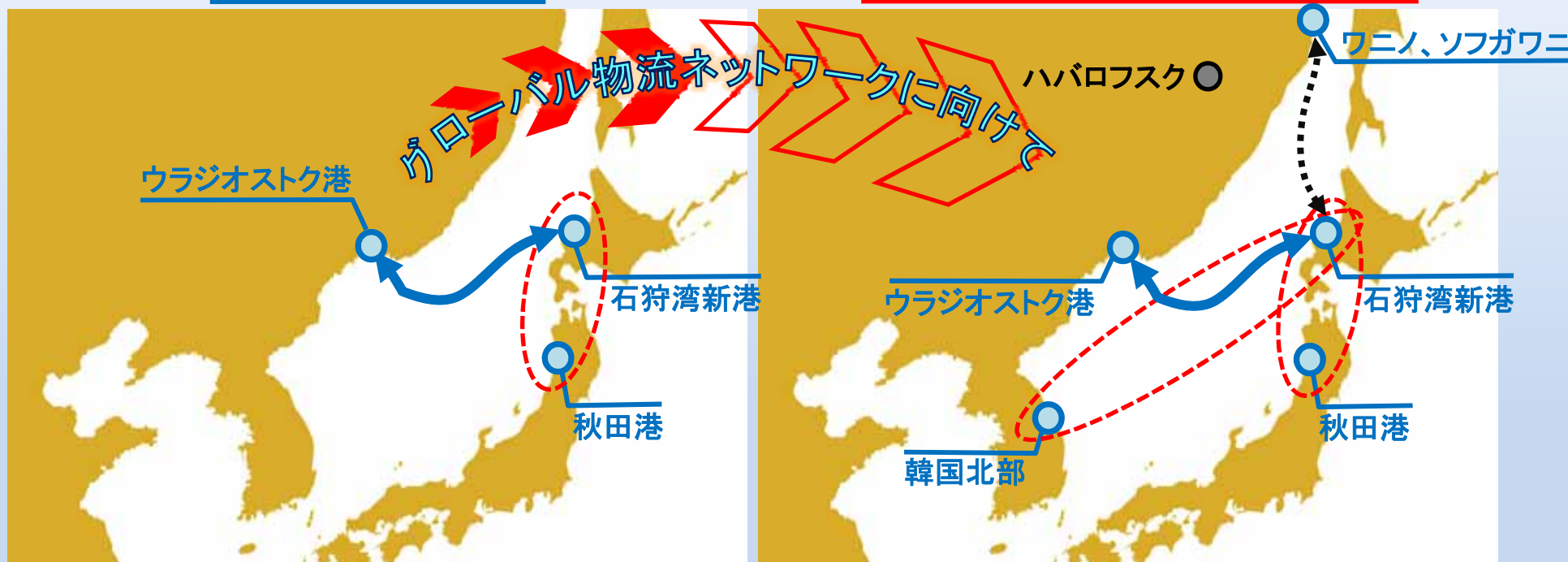
・輸出入バランスを確保し、効率的輸送を実現。

Step2 ・ロシアウラジオ港との航路を主軸に、韓国北部やワニノなど、対岸の拠点との交流を促進。

・グローバルな物流に対応可能なネットワークを形成し、ロシア貨物の拠点を形成。

国内他港との連携

物流ネットワークの形成



対

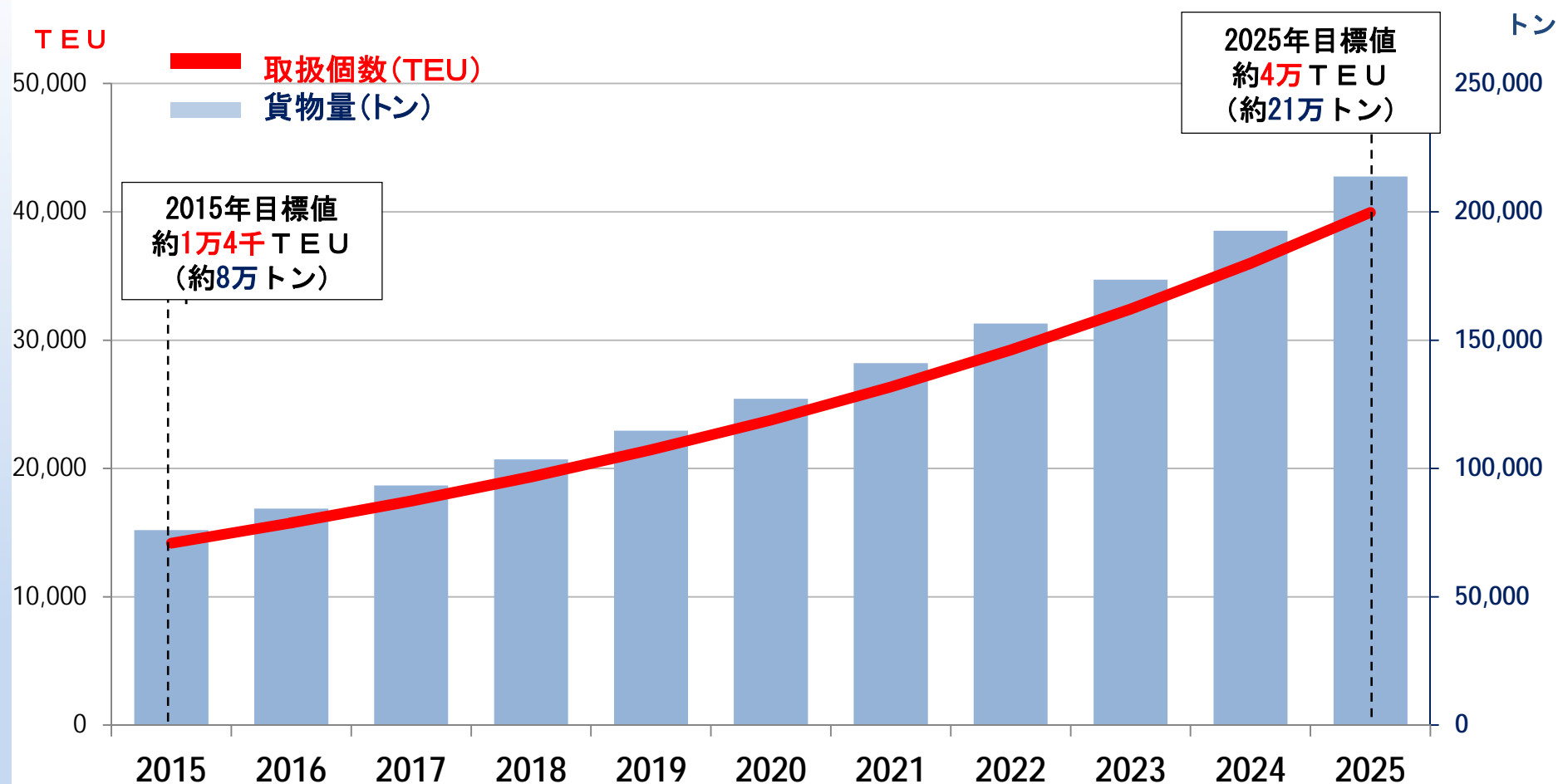
対岸諸国とのコンテナ貨物の目標値

ISHIKARI BAY NEW PORT
〔国際海上コンテナ〕

計画の目標値

○2015年の取扱個数は、約1万4千TEU〔貨物量は、約 8万トン〕

○2025年の取扱個数は、約4万TEU 〔貨物量は、約21万トン〕

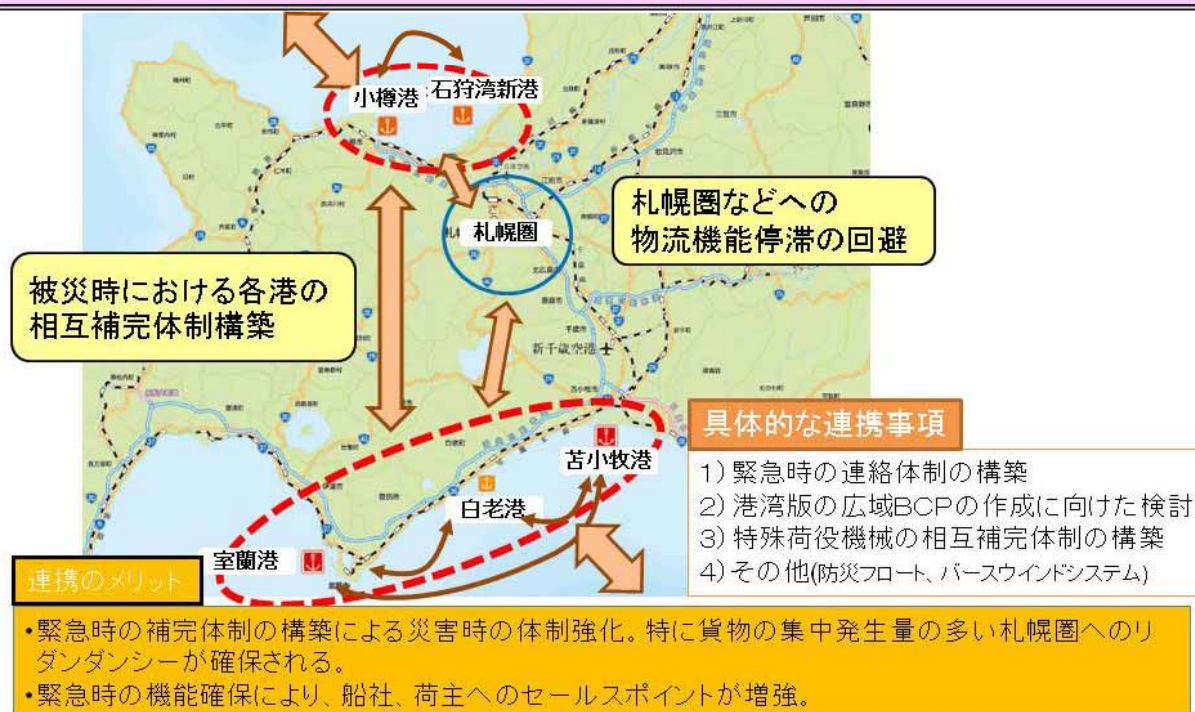


目指す姿への取り組み（太平洋側等との相互補完）

- 北海道の道央圏5港（室蘭港、苫小牧港、小樽港、石狩湾新港、白老港）において「道央圏港湾の広域連携による機能強化」が基本合意されており、各港の相互補完体制の構築について取り組みを進めている。

④防災機能強化に向けた連携（大規模災害発生時における連携）

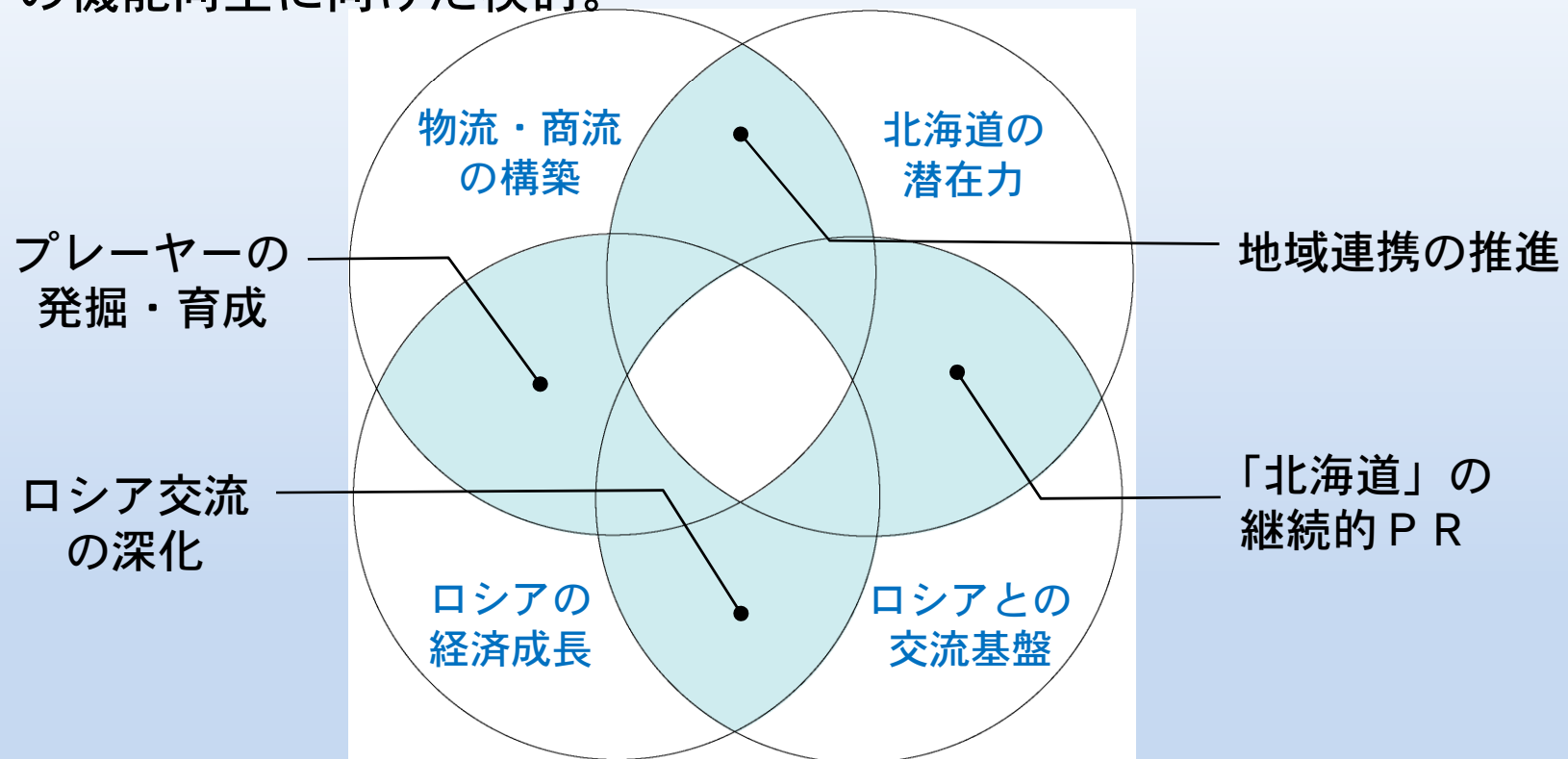
四方を海に囲まれた北海道にとって港湾は大規模災害発生時の輸送ルートとして重要な責務を果たさなければならない。このため物流機能の停滞を回避するための連携体制の構築等を推進していく。





目指す姿への取り組み（シナジーマネジメント）

- 関係地方自治体、港湾振興団体など、地域が一体となり、ロシア貿易拡大への取り組みを継続・発展。
- 対ロシア貨物を本港へ集約、掘り起こしを行うプレイヤーの発掘・支援。
- ロシア市場の開拓に向けた交流・PR活動の継続とともに、さらに深化。
- コンテナ貨物の増加に伴う既存施設の有効活用と、更なる増加に伴う今後の機能向上に向けた検討。



- 輸送時間の短縮による賞味・消費期限が短い食品の輸送
- 輸送コストの縮減、貨物の集約による商品の価格競争力強化
- 航路の定時性・頻度の確保による安定した輸送への貢献
- ロシア貿易の活発化による北海道経済、日本経済の活性化
- 太平洋側等との相互補完による、災害に強い物流ネットワークの形成

